

(2) 健康・スポーツ科学教育部会

教育部会名	健康・スポーツ科学
部会長名／作成者名	高見和至
概 要 (2 ページ)	
(1) 組織・運営について 令和5年度の健康・スポーツ科学教育部会は、人間発達環境学研究科 16 名、海事科学研究科 1 名、保健学研究科 14 名、科学技術イノベーション研究科 1 名、医学研究科 1 名、理事 1 名の合計 34 名の構成であった。本年度は部会長、幹事 2 名と技術補佐員 1 名で運営にあたった。 令和3年度から、退職により実習科目の担当教員が 2 名減ったが、開講コース数の維持に努めた。 (2) 実施状況について 健康・スポーツ科学教育部会としては、前期に健康・スポーツ科学実習基礎 (1 単位)、後期に健康・スポーツ科学実習 1 (0.5 単位) と健康・スポーツ科学実習 2 (0.5 単位) の 3 つの実習科目、及び健康・スポーツ科学講義 A、健康・スポーツ科学講義 B、健康・スポーツ科学講義 C の 3 つの講義科目 (いずれも 1 単位) の合計 6 科目を開設している。健康・スポーツ科学は、身体と健康・運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学であり、開設されている 6 科目の実習及び講義を通して、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することを目指している。 健康・スポーツ科学実習基礎は、学部ごとに月曜から木曜日まで 11 の曜限枠を設定 (一部複数学部で構成) し、1 枠あたり 3~7 クラス (コース) として、本年度は計 56 コースを全 13 回のセメスター科目として前期に開講した。一方、健康・スポーツ科学実習 1 及び同実習 2 は昨年度までと同様に、後期月曜から木曜日まで 5 の曜限枠を設定し、本年度は計 17 コースを開講した。これらの実習科目では、教育効果、安全性の確保、教場の条件などから、最大限 1 クラス 40 名を目安に設定しており、前後期の 73 コースのうち、専任教員が 25 コース、非常勤講師が 45 コースを担当した。健康・スポーツ科学実習の理念・シラバス・評価等について、すべての担当教員が共通の観点を持つために、「健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き」を作成し、各教員の専門性を活かしながら効果的な実習授業を展開している。 本年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、更衣用の教室準備、更衣の時間差設定の対策を講じ、種目によるマスクの適宜着用を指導した。 健康・スポーツ科学講義は、「健康・スポーツ科学講義 A」、「健康・スポーツ科学講義 B」及び「健康・スポーツ科学講義 C」 (いずれも 1 単位) の 3 つを 1 つの時限枠に並列で開設しており、本年度は前期第 2 クォーターで 1 枠、後期第 3 クォーターで 2 枠として提供、それぞれの時限枠で学生がいずれかの科目を選択して履修希望を申請し、3 科目の履修学生数が均等になるように調整して履修登録をさせている。 健康・スポーツ科学講義の担当教員にはすべて専任教員を配当して、3 種類の講義内容を提供している。「健康・スポーツ科学講義 A」では、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための健康やスポーツの知識や実践能力について、「健康・スポーツ科学講義 B」では、健康で心豊かな生活を送るための主体的な健康管理の方法について、「それぞれ講義を行っている。 ◎今年度の特筆すべき事項 (1) 実習基礎、実習 1, 2 の対面実施再開に対する評価	

本年度も引き続きコロナ感染対策を講じたうえで、すべて対面で行った。学生の授業評価も良好であった。「健康・スポーツ科学実習基礎」は、大学入学により生活様式が変容するなかで、運動の機会を作り、新たな人的交流の機会を提供する貴重な場となっている。一般教養科目として、学生にとってより有意義な健康・スポーツ科学実習の授業カリキュラムを追求し続ける必要がある。特に、学生の感想からは改めて学生の「友人たちと一緒にスポーツをしたい」「クラスメイトと交流したい」という思いの強さを認識させられた。

(2) 全学共通教育ベストティーチャー賞を複数の実習担当教員が受賞

本年度も前期の健康・スポーツ科学実習基礎を担当した 1 名と後期の健康・スポーツ科学実習 1 を担当した 1 名の非常勤講師がベストティーチャー賞を受賞し、受賞者に続いて学生からの高い評価を受けた教員として、前後期合わせて 2 名の教員が名を連ねた。本年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、更衣室の分散使用や授業前後の用具の消毒など通常にはない作業負担が教員、学生共に必要であった状況で、外国語科目を除く全学共通授業科目の中から当部会の教員が複数選出されたことは特筆すべきことであり、部会内で検討・実践してきた授業運営の成果の一端であると自信を深めている。

(3) 総括と今後の課題

対面授業の再開に伴い、それに対応した感染予防策を実施し、本授業履修者内で複数の感染者が同時期に発生したケースはなく、無事終了することができた。

今後の課題であるが、専任教員の退職による授業担当者の減少に対する授業計画を立案することである。効果的な授業構成と非常勤講師の適切な配置で、専任教員の負担増にならないようにしたい。また、「運動施設の老朽化」への対応も引き続き要求したい。この 3 年間のコロナ感染症流行下において、健康・スポーツ科学教育は、教養教育の側面だけではなく、授業の範囲を超えて、学生のメンタルヘルス維持増進に寄与する授業であることが再認識された。我々はその役割にも積極的に応えていく所存である。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか (100 字程度)

本年度の健康・スポーツ科学教育部会は、部会長の他、2 名の幹事及び支援室職員の技術補佐員の体制で運営にあたった。教育部会教員会議 (3 月) のほか、実習担当者会議) 及び幹事会を行って教育部会の円滑な運営に努めた。

根拠資料

・令和 5 年度教育部会構成員名簿

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか (100 字程度)

実習コースは学生の選好に応じて、複数種目の中から選択できるようにしている。各コースの履修者数は学期ごとに集計し、振り返りアンケートの結果とともに学生のニーズを分析して次年度の時間割作成時に反映している。

講義科目についても履修者数を把握し、授業内容に反映している。

根拠資料

・2023 年度 振り返りアンケートの結果
・2022 年度及び 2023 年度の健康・スポーツ科学実習及び同講義履修者数

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された

取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

すべて対面授業で行い、コロナ以前の形に戻ったが、更衣室の分散使用は継続している。そのため、自己点検・評価から提示された問題点についても、優先的に取り扱うことはできていない。この点は、令和 6 年度の課題としたい。

根拠資料

・ 2023 年度 振り返りアンケートの結果

③授業の内容及び方法の改善を図るための F D を組織的に実施しているか（100 字程度）

実習担当教員会議を複数回実施し、新型コロナウイルス感染症の感染予防策について、更衣室の分散利用、用具の使用方針等について、共通認識の構築を図った。また、新規専任教員も増えたことから、「実習基礎」を中心に実習科目の運営方法について、専任教員だけでなく非常勤講師も含め、担当者の共通理解を図るべく教務担当幹事からの説明のあと意見交換を行った。

根拠資料

・ 2023 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
・ 2023 年度 振り返りアンケートの結果

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

教養教育支援室職員として技術補佐員を置いており、同曜限に複数コースが実施される授業が円滑に行えるように補助業務を担っている。また、TA の雇用も実施している。

根拠資料

・ 2022 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

C 教育課程と学習成果について

①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

健康・スポーツ科学の学修目標は、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することであり、提供している講義 3 科目及び実習 3 科目の目標はいずれもこれに対応したものとなっている。

根拠資料

・ 2023 年度 各授業シラバス
・ 2023 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

前期実習科目はシラバスを共通化しており、到達目標を含め内容は健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえたものとなっている。また、講義や後期の実習についても担当教員に健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえたうえでの多様な内容になっている。

根拠資料

・ 2023 年度 各授業シラバス
・ 2023 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

度)

前期実習科目はシラバスを共通化しており、到達目標を含め内容は健康・スポーツ科学の学修目標を踏まえたものとなっている。また、講義や後期の実習についても学修目標を遵守しており、いずれの科目においても到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料

- ・2023年度 各授業シラバス
- ・2023年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

④単位の実質化への配慮がなされているか（100字程度）

実習の授業では授業開始時に出席を厳格にとり、教育部会独自の評価基準で学生に対応し、授業中の参加態度や他受講生との積極的交流も評価材料にしている。また、「評価の対象」や「評価の基準」を初回ガイダンス時に学生に説明し周知している。

根拠資料

- ・2023年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・実習科目用「履修カード」

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150字程度）

健康・スポーツ科学実習基礎においては、実習ノートに基づき、運動時のエネルギー消費や運動の生理的負担等を実測させている。また、2回の講義実施回では、実技内容に応じた理論を学習させて学習効果を高めている。

各スポーツ種目を教材とした実習1,2では、発展的な学習として、中級レベルの内容や試合の自主的な運営など、適切な学習指導法の導入を図っている。

健康・スポーツ科学講義ではオムニバス形式により各講義回の内容を専門としている教員が講義を行うようにしている。特に一部の講義では、実習も担当している教員が兼務することで、理論と実践の融合を図っている。

根拠資料

- ・2023年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・健康・スポーツ科学実習「実習ノート」

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50字程度）

健康・スポーツ科学実習基礎及び健康・スポーツ科学講義は、それぞれ複数の曜限で開設されており、同一科目名の科目については、授業内容の共通化を図るためシラバスを共通としている。なお、実習基礎のシラバスは、学修目標はもちろん内容も共通化を図るとともに、実態に即して各スポーツ種目に応じた内容も盛り込み、学生の興味関心、学習への動機づけを高める工夫をしている。

根拠資料

- ・2023年度 各授業シラバス
- ・2023年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100字程度）

実習授業では曜限ごとにコース（スポーツ種目）が選択できるようになっているが、提供するスポーツ種目は年度ごとに検討することとしており、前年度の学生の履修状況を勘案しながら時間割を作成する際に反映するようにしている。また、適宜新しい種目の導入も行っている。それと並行し、身体運動を行う際に支援が必要となる学生が履修していた場合は、当該授業にTAを優先的に配置するようにしている。

根拠資料

- ・健康・スポーツ科学教育部会ホームページ
- ・2023年度 各授業シラバス
- ・2023年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100字程度）

実習授業は曜限ごとにコース（スポーツ種目）が選択できるようになっており、各コースの内容は初回のガイダンスにて各担当教員より説明し、学生はそれら情報を元にコースを選択して履修手続きを行うこととしている。また、部会専用のホームページを設置し、相談窓口を明示しており、例年そこから学生の履修相談が寄せられている。

根拠資料

- ・健康・スポーツ科学教育部会ホームページ
- ・2023年度 各授業シラバス
- ・2023年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100字程度）

健康・スポーツ科学実習の受講学生には、毎期の初回授業で行われるガイダンスで評価観点等について説明し周知している。また、同講義においてもシラバス記載の基準をガイダンスで説明し、その上で授業を進めている。

健康・スポーツ科学実習では、成績評価について①評価基準、②評価の対象、及び③評価の観点として、それぞれガイドラインを設けており、科目ごとの成績分布を含めて、前年度末に実施される次年度の健康・スポーツ科学実習オリエンテーションにて授業担当者で確認共有している。

なお、実習科目は「優+秀：40%程度以内」の評価基準対象外の科目ではあるが、成績分布が過度に偏っている科目については、部会長が科目担当者に対して改善を求めることとしている。

根拠資料

- ・2023年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス等の手引き
- ・実習科目用「履修カード」
- ・2023年度授業振り返りアンケート結果

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100字程度）

健康・スポーツ科学実習に対する学生の授業評価は良好なものである。また、ベストティーチャーの対象となる教員が選出されていることから、学生の学習目標に対する理解も定着していると考えられる。スポーツ活動を通したコミュニケーションの促進も本授業の目標の一つであるが、学生の感想コメントから一定の効果をあげていることが推察される。

健康・スポーツ科学講義の授業評価も概ね良好であり、概ね適切な学修成果が得られていると判断される。

根拠資料

- ・2023年度 振り返りアンケート
- ・令和5年度 各教員の自己点検・評価シート

